

令和 7 年度（2025 年度） 大学 I R コンソーシアム 年次報告書



一般社団法人
大学 I R コンソーシアム

はじめに

大学 IR コンソーシアムは、2009 年度文部科学省戦略的大学連携支援事業として採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出 一国公私立 4 大学 IR ネットワーク」(同志社大学・北海道大学・大阪府立大学・甲南大学)において、以下の項目に取り組んできました。

- * 共通の学生調査の開発
- * 学生調査結果を大学間で共有・活用するシステムの開発
- * IR 人材育成のためのワークショップ事業

そして、今日の高等教育における IR の必要性の広がりとともに会員校数が増加し、その社会的責任も次第に大きくなってきたことから、2018 年 4 月、非営利型の一般社団法人として大学 IR コンソーシアムは再スタートしています。

本コンソーシアムは、学生調査分析を軸とする IR 機能の開発を基盤として、IR を通じた会員間での相互評価の結果を学士課程教育の質的向上に結びつける質保証システムの創出と全国規模の IR コミュニティの育成を目的としています。(定款第 3 条)

主に実施している事業は以下の通りです。

- (1) 学生調査のマネジメント
- (2) 学生調査を基にした教育成果の測定指標及び方法の開発
- (3) IR 人材育成と教学 IR の啓発活動
- (4) IR 関係情報収集及び情報発信
- (5) 大学連携推進のための広報活動

大学 IR コンソーシアムでは、年間で取り組んだ活動(アンケート調査、イベント・セミナー・シンポジウム、講習会、情報公開など)をまとめ、年次報告書として発行しています。

ご一読いただけましたら幸いです。また、新規で加入をご希望の大学におかれましては、ぜひご連絡ください。本コンソーシアムを今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

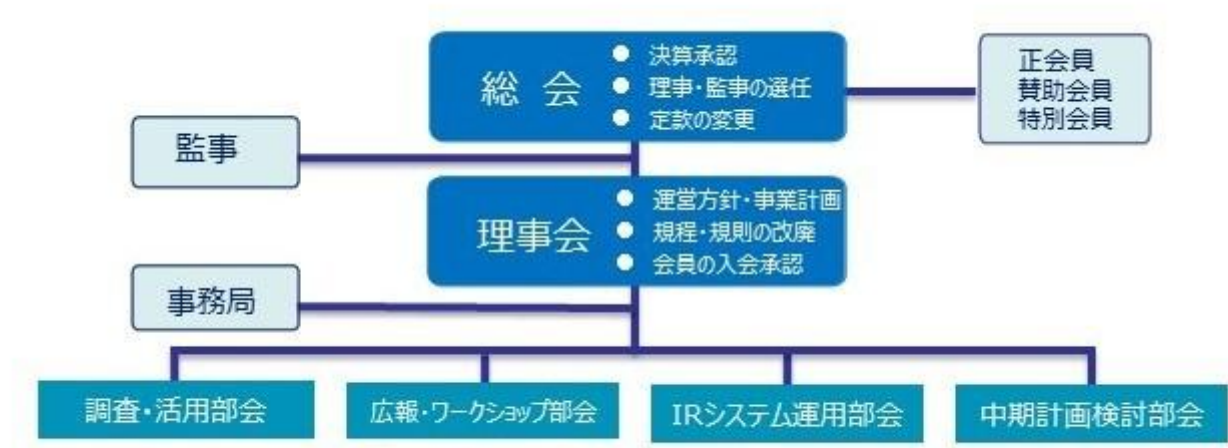
一般社団法人 大学 IR コンソーシアム

目 次

1. 組織体制	4
2. 部会(ワーキンググループ)	4
3. 役員一覧	5
4. 部会委員一覧	5
5. 今年度の主な活動	
(1) 2024 年度 年間活動	6
(2) 部会活動状況	7
(3) イベント実施状況	8
6. 情報公開	1 6
7. 会員一覧	1 6

1. 組織体制

総会では、決算の承認、理事・監事の選任、定款の変更等を行っており、理事会では、運営方針・事業計画の検討・承認、規程・規則の改廃、会員の入会承認などを行っています。



2. ワーキンググループ

大学 IR コンソーシアムの具体的な運営は、理事会の下に設置された各部会が行います。

調査・活用部会

- * 学生調査の企画、各種データの活用
- * 学生調査の調査項目に関する検討
- * 測定や分析手法に関する情報収集
- * 学生調査の実施方法にかかる調整
- * 卒業生調査の検討

広報・ワークショップ部会

- * ワークショップの企画、運営
- * 国内外の IR 動向の情報収集
- * IR に関する勉強会の企画、運営
- * 当コンソーシアムや IR 関係の情報発信
- * 新規会員校の募集

IRシステム運用部会

- * システムの運用保守
- * データ登録のスケジュールや方法の検討
- * システムに登録するデータの定義の検討
- * システム操作方法講習会の企画、運営
- * システムでの集計、表示の方針の検討
- * 利用方法に関するマニュアルの作成

中期経営計画検討部会（2022 年 2 月設置）

- * 中期計画の検討、立案
- * 理事会への提言

3. 役員一覧（2025 年 6 月末時点）

役 職	氏 名	所 属 機 関
代表理事・会長	福 島 真 司	大 正 大 学
理 事・副 会 長	高 橋 哲 也	大 阪 公 立 大 学
理 事	相 生 芳 晴	上 智 大 学
理 事	相 原 総一郎	芝 浦 工 業 大 学
理 事	江 本 理 恵	北 海 道 大 学
理 事	関 和 広	甲 南 大 学
監 事	寺 澤 岳 夫	神 田 外 語 大 学
監 事	萩 野 敦 子	琉 球 大 学

4. 部会委員一覧（2025 年 4 月 1 日時点）

調査・活用部会		広報・ワークショップ部会		IRシステム運用部会		中期計画検討部会	
福島 真司	大正大学	相生 芳晴	上智大学	高橋 哲也	大阪公立大学	畑野 快	大阪公立大学
浅賀 圭祐	岩手大学	橋本 智也	大阪公立大学	相生 芳晴	上智大学	寺澤 岳生	神田外語大学
相原 総一郎	芝浦工業大学	溝端 祐介	甲南大学	溝端 祐介	甲南大学	浅賀 圭祐	岩手大学
西本 裕輝	琉球大学	福島 真司	大正大学	石川 貴彦	名寄市立大学	上垣 友香理	大阪公立大学
江本 理恵	北海道大学	寺澤 岳生	神田外語大学			相生 芳晴	上智大学
平 知宏	大阪公立大学					山川 剛史	龍谷大学
小山内 幸広	東北工業大学					福島 真司	大正大学
石川 貴彦	名寄市立大学					松永 雅弘	長崎国際大学
高橋 哲也	大阪公立大学						
栢木 紀哉	龍谷大学						

5. 今年度の主な活動

(1) 2025 年度 年間活動

月	総会・理事会	部会・その他	講演会・講習会、イベント
4 月	第 74 回 理事会	理事選挙 IR システム運用部会	第 29 回講習会
5 月	メール回議理事会 第 75 回 理事会	学生調査データの登録 卒業生調査データの登録	
6 月	メール回議理事会 第 8 回 定時社員総会 第 78 回 理事会	広報・WS 部会	
7 月	第 79 回 理事会	広報・WS 部会 卒業生調査開始（～翌年 3 月） 学生・卒業生調査集計結果公開	
8 月			
9 月	第 80 回 理事会		第 30 回講習会 第 8 回合同シンポジウム 第 31 回講習会
10 月	第 81 回 理事会	学生調査開始（～12 月）	第 32 回講演会 第 33 回講演会
11 月	第 82 回 理事会		第 34 回講習会
12 月	第 83 回 理事会		第 35 回講習会
1 月	第 84 回 理事会		
2 月	第 85 回 理事会	学生調査データの登録	
3 月	第 86 回 理事会	学生調査の中間集計結果の公開	第 36 回講習会

(2) 部会活動状況

部会	日時／議題	参加者名（順不同、敬称略）		
第1回	2025年4月25日	大阪公立大学	高橋 哲也	
IRシステム運用	13:00～14:45	上智大学	相生 芳晴	
部会長会議	全国学生調査対応での新設間について	大正大学	福島 真司	
第1回	2025年6月23日	上智大学	相生 芳晴	
広報・WS部会	11:00～12:00	大正大学	福島 真司	
	部会長選出、中期計画の進捗報告	神田外語大学	寺澤 岳生	
	お試し会員の募集について			
第2回	2025年7月29日／7月31日	上智大学	相生 芳晴	
広報・WS部会	11:00～11:45 ／11:00～11:30	神田外語大学	寺澤 岳生	
部会長会議	HPの改修			

(3) イベント実施状況

①第29回講演会（Zoom）

開催日時：2025年4月2日（水） 10:30 から 11:30

講師：大学IRコンソーシアム事務局 林 裕子

内容：CSグラフテンプレ説明と5月登録説明会

参加者：17人

②第30回講演会（Zoom）

開催日時：2025年9月4日（木） 09:30 から 11:50

講師：上智大学 IR推進室 室長 相生 芳晴 様

内容：Excelによるアンケートデータの可視化

参加者：57人

③第31回講演会（Zoom）

開催日時：2025年9月25日（木） 11:00 から 12:05

講師：大阪公立大学 国際基幹教育機構 高等教育研究開発センター
准教授 橋本 智也 様

内容：初級者のためのIR入門（2025年度版）

～考え方と実践事例から自大学での応用可能性を考える～

参加者：41人

④第 32 回講演会 (Zoom)

開催日時 : 2025 年 10 月 9 日 (木) 09:30 から 11:35

講 師 : 上智大学 IR 推進室 室長 相生 芳晴 様

内 容 : ChatGPT で大学事務をこなしてみる

参 加 者 : 77 人

⑤第 33 回講演会 (Zoom)

開催日時 : 2025 年 10 月 28 日 (火) 10:30 から 11:30

講 師 : 神田外語大学 教育イノベーション研究センター 寺澤 岳生 様

内 容 : (1)「アンケート結果 CS 分析 by Tableau でする方法」

(2)「DATA Saber 認定制度についてのご紹介」

参 加 者 : 25 人

⑥第 34 回講演会 (Zoom)

開催日時 : 2025 年 11 月 14 日 (火) 11:00 から 12:00

講 師 : 大学 IR コンソーシアム事務局 林 裕子

内 容 : 改修版 IRiS 説明会

参 加 者 : 51 人

⑦第 35 回講演会 (Zoom)

開催日時 : 2025 年 12 月 10 日 (水) 13:30 から 14:55

講 師 : 大学 IR コンソーシアム事務局 林 裕子

内 容 : 2 月登録説明会

参 加 者 : 43 人

⑧第 36 回講演会 (Zoom)

開催日時 : 2026 年 3 月 27 日 (金) 13:30 から 14:10

講 師 : 大学 IR コンソーシアム事務局 林 裕子

内 容 : 5 月登録説明会

参 加 者 : 21 人

⑨第 8 回合同シンポジウム (ハイフレックス形式<対面会場は、大正大学>)

開催日時 : 2025 年 9 月 11 日 (金) 13時から 17 時

※翌日の 12 日は「第 19 回 EMIR 勉強会」の開催日

開催団体 : 一般社団法人 大学 IR コンソーシアム

株式会社ベネッセ i-キャリア まなぶとはたらくをつなぐ研究所

大正大学エンrollment・マネジメント研究所

テーマ : 『知の総和』向上のために IR が果たすべき役割

プログラム：

・会場校挨拶 13：00～

大正大学 学長 神達 知純 氏

・講演 13：05～

①講師：共愛学園前橋国際大学 学長 大森 昭生氏

演題：学修者本位と質・規模・アクセス

－ダイナミックな教学マネジメントを創発する IR への期－

②講師：関西大学 教育推進部 教授 山田 剛史氏

演題：IR が支える高等教育の再構築

－「学修者本意の教育」の実現に向けた関西大学の挑戦－

③講師：独立行政法人大学改革支援・学位授与機構教授 鳶田 敏行氏

演題：IR を「知の総和」の向上にどのように活用するか

④講師：文部科学省 高等教育局 大学振興課長 石橋 晶氏

演題：「知の総和」答申を踏まえた高等教育政策の方向性

－学修者本位と社会基盤としての大学－

・講演者によるオープンディスカッション 16：00～

モデレーター：ベネッセ i-キャリア まなぶとはたらくをつなぐ研究所 主席研究員

村山 和生氏

参加者：42 人（会場）／307 人（Zoom） 計 349 人

6. 中期計画の進捗について

弊会は今年度で法人化から 7 年目に入り、ある程度安定してきた運営状況を踏まえ、加盟校のメリットをより拡大化していくため、2023 年度を初年度とする 3 か年の中期計画を策定し、計画に基づいた取り組みを開始致しました。

中期計画は、2021 年 11 月に設置された中期計画検討部会が中心となってブレインストーミングや全会員を対象にしたアンケート（実施期間：7 月 6 日から 7 月 20 日まで）などを基に次の 5 つの重点課題を抽出しました。

■重点課題 1 コンソーシアムのあり方についての検討

- ・コンソーシアムの目的の再確認
- ・多様化する会員特性やニーズと全会員一律の会費設定、一律の権限付与の是非
- ・文部科学省や関連する他機関との相乗効果的な連携の検討

■重点課題 2 データの活用方法の開発

- ・ベンチマーク指標の開発
- ・効果的な相互比較の方法の開発

■重点課題 3 IR システムの改修

- ・ 現行 IRiS の利用拡大の推進（低い利用率の解消）
- ・ 活用ガイドラインの検討

■重点課題 4 現会員間の情報共有・意見交換の場の拡充

- ・ 調査結果の活用、他大学との共有に関する場の設定
- ・ 交流の場の充実

■重点課題 5 新規会員獲得に向けた広報の拡充

- ・ 活動報告資料の充実の検討（パンフレット、ホームページ、年次報告書等）
- ・ 広報活動充実の検討（学会や研究会等の企業ブース出展・アピール、プレスリリース等）

それぞれの重点課題は、具体的な取組みが計画番号として記されています。
各計画番号の取組みの進捗状況については、次ページ以降をご参照下さい。

中期計画の報告

重点課題 1：コンソーシアムのあり方についての検討

- **25年度の活動：** 全国学生調査への対応や設問削減、これに伴う IRiS 改修を最優先事項としたため、学修成果の可視化に向けた新調査の検討や会費・会員権限の見直しについては、理事会の判断等に基づき、継続検討の見送りや活動の休止が決定されました。
- **3年間の活動：** 検討当初、会費改定や会員権限の柔軟化が議論されましたが、非営利法人の形態維持や収支への影響から策定困難と結論づけられました。一方、外部連携においては MJIR 等の主要団体との関係構築が進み、イベント出展や講演依頼を通じた協力体制がある程度構築できました。

重点課題 2：データの活用方法の開発

- **25年度の活動：** 文部科学省のスケジュール遅延（23年度本格実施の延期等）の影響を受け、当初予定していた新調査票によるベンチマーク指標の検証ができず、全国学生調査との統合対応が活動の中心となりました。
- **3年間の活動：** 旧調査データを用いた指標案（因子分析・内容的妥当性）の検証や大学間比較の試案作成、クラスタリング基準案の策定まで進捗しましたが、最終的には全国学生調査に合わせた柔軟な方針転換を余儀なくされました。

重点課題 3：IR システムの改善

- **25年度の活動：** 全国学生調査の本格実施に向けた設問統合・削減と IRiS の大規模改修を完遂しました。あわせて、CS 分析グラフテンプレートの提供や活用講習会の開催など、利便性向上に注力しました。
- **3年間の活動：** Microsoft 製品の値上げによる保守・運用コスト増への対応を迫られましたが、HP の WordPress 化による事務局での情報更新体制の確立、ログ分析に基づいた利用状況の継続的なモニタリング、動画コンテンツの拡充など、システムの利用拡大と維持管理の整備を推進しました。

重点課題 4：現会員間の情報共有・意見交換の場の拡充

- **25年度の活動：** 外部講師にこだわらず会員の関心を重視した講演会・講習会を計 8 回開催し、内容の充実に努めました。
- **3年間の活動：** 講演会活動は着実に活発化しましたが、コロナ禍に対応したリモート形式の「新ワークショップ」の定着や、大学の規模・地域等に応じた自律的な「部活動」コミュニティの創設については、具体的な検討やモデル開設に至らず、今後の課題となりました。

重点課題 5：新規会員獲得に向けた広報の拡充

- **25年度の活動：** 新たに「お試し体験」制度を創設し、15 校の応募から 8 校で実施、3 校の新規入会を実現しました。また、HP の改修を通じて全国学生調査との設問統一に関する情報発信を強化しました。
- **3年間の活動：** 年次報告書の HP 掲載や MJIR への出展といった広報ツールを整備しました。会員数については全国学生調査本格実施が影響して伸び悩みましたが、3 年間の活動を経て、会長直下に新規勧誘チームを設置するなど、より攻めの勧誘体制へとシフトしました。

第 2 期 中期計画について

次の中期計画については、現在理事会で協議中ですが、次の様な進め方を検討中です。

1. 理事会が、基本方針や戦略軸を「部会」へ提示する。
 - ・定款に定める目的と事業（学生調査、指標開発、人材育成、情報発信等）を出発点として、現状の課題と実施項目を網羅的に整理する。
 - ・当会が将来目指す姿を明確化にする。「データ基盤を提供する団体」or「分析支援まで担う団体」
 - ・新たな基本方針として、「日本唯一の横断的学生調査データ基盤の高度化と持続的発展」を掲げる。
 - ・具体的な施策は「データ基盤強化」「データ価値最大化」「持続可能な会員基盤形成」「戦略的発信・ブランド管理」の 4 つの戦略軸に整理する
2. 部会は、提示された基本方針や戦略軸に基づき、計画を立案し実行する。
 - ・各戦略軸に達成目標と重点施策を設定し、中長期的な活動計画へ落とし込む。

中期計画検討部会（重点課題1 コンソーシアムのあり方についての検討）

【報告2】中期計画の報告案

取り組みの概要	計画 番号	2023年度	2024年度	2025年度
コンソーシアム全体の活動のモニタリング 本会の目的を再確認するとともに、目的に沿った活動ができているかどうかをモニタリングし、必要に応じて目的・活動内容を見直す。	1	コンソーシアムの目的に沿った活動のあり方について、現状の部会の活動を踏まえた上で、検討する。必要に応じて目的・活動内容を見直す。	コンソーシアムの目的に沿った活動のあり方について、現状の部会の活動を踏まえた上で、検討する。必要に応じて目的・活動内容を見直す。	コンソーシアムの目的に沿った活動のあり方について、現状の部会の活動を踏まえた上で、検討する。必要に応じて目的・活動内容を見直す。
		現状についてモニタリングする。	現状についてモニタリングする。	現状についてモニタリングする。
		・本会の目的である「学修成果の可視化」について、現状は成果測定に課題があると認識。 ・委員校では問7を成果指標とする例が多かった。 ・設問を分類した結果、成果測定は12問にとどまり、改善の余地が示唆された。 ・改善施策として成果測定の新調査創設を検討。 ・この創設案は2024年度理事会で審議予定。	・成果測定の新調査創設については、本会として取組んでいる全国学生調査対応や設問数削減対応と内容や時期などが大きく関係するため、当部会としての検討は一旦終了し、継続検討や検討主体等については別途理事会の判断を仰ぐこととした。 ・成果測定の新調査創設について9/17理事会で説明。当面は全国学生調査対応や設問数削減対応に注力する必要があるので継続検討は見送りとなった。	昨年度の欄に記載の通り、今年度は全国学生調査との設問統合、設問数削減、およびこれらに対応したIRiS改修に注力するため継続検討は見送った。
会費と会員権限の検討 現状では各会員に対し学生数やIRシステムの利用頻度に関わらず一律の会費設定・権限付与が行われている。会員の多様性やニーズの違いを踏まえた会費設定・権限付与のあり方について検討する。	2	会費・会員権限の基準（e.g., サービス、学生数）について検討を行う。	作成した修正案について、会員にニーズ調査を行う。	
		会費・会員権限修正案を策定する。	調査の結果についてまとめ、部会で報告する。	会員アンケートによるニーズ調査の実施。
		(1)会員をニーズ別に類別した定額制や、IRiS利用量に応じた従量制を検討したが、非営利型法人は会費をサービス対価とできない要件が判明。 (2)会費変更は総会決定のため柔軟性に欠ける。 (3)収支や法人形態維持などを踏まえ、修正案の策定は困難と判断し見送り。 (4)取り組みの概要見直しも含め、理事会に諮る。	・会費・会員権限について9/17理事会で説明。当会の収支への影響や非営利法人という法人形態維持を考慮すると会員のニーズなどに対応した会費の改変は難しいため継続検討は見送りとなった。	昨年度の欄に記載の通り、本検討活動は休止した。
文部科学省、他機関との連携方策の検討 我が国において学生調査を実施・分析している主体は様々なレベルで存在する。他機関との連携を通して本会の発展の方向性を検討する。	3	文部科学省、IRに関する他機関、コンソーシアムと連携することの意義と連携先と方策について検討する。	連携することの意義と利点についてまとめ、連携候補先と協議を開始する。	連携先との合同イベントを開催する。
		連携先を選定する。	協議の進捗をまとめる。	合同イベントを開催する。
		・具体的団体との連携案を意見交換。 ・関係構築のためMJIR出展や講演依頼を実施。 ・連携先の選定には至らず。	・IR団体として活発に活動しているMJIRとの更なる関係構築のため、広報活動も兼ねてイベントへの出展や講演を実施した。	・昨年度と同様に、IR団体として活発に活動しているMJIRとの更なる関係構築のため、広報活動も兼ねてイベントへの出展や講演を実施した。

取り組みの概要	計画 番号	2023年度	2024年度	2025年度
<u>新旧調査票に対するベンチマーク指標の 策定および研究</u> 100以上ある調査項目の回答結果を一度に理解・把握することはあまり容易ではない。そこで、複数の項目の一次結合からなる指標を作成し、回答結果の概形を容易に理解・把握できるようにする。指標の数は10～15程度を想定している。また、作成されたベンチマーク指標に関し、過去データを用いた分析・研究を進める。	4	<u>旧調査票に対するベンチマーク指標案の作成</u> 過去データの探索的分析や内容の妥当性の検討などにより、指標の作成方法について検討し、指標案を作成する。	①旧調査票に対するベンチマーク指標案の検証 作成された指標案の妥当性および有効性を検証する。 ②ベンチマーク指標に関する研究 過去データを用いた研究を行う。 ③新調査票に対するベンチマーク指標案の作成 旧調査票に対するベンチマーク指標を参考にしながら、2023年調査のデータを用いた探索的分析や内容の妥当性の検討などにより、指標の作成方法について検討し、指標案を作成する。	①新調査票に対するベンチマーク指標案の検証 作成された指標案の妥当性および有効性を検証する。 ②ベンチマーク指標に関する研究（継続） 計画4、5の取り組みの成果も踏まえ研究を継続するとともに、成果をまとめ、公開する。 ③システム改修に向けた検討 IRシステム部会と連携し、システム改修の検討を行う。
		ベンチマーク指標案の有無（無しの場合は検討の進捗状況）	①ベンチマーク指標案の検証完了 ②研究の進捗状況 ③ベンチマーク指標案の有無	①ベンチマーク指標案の検証完了 ②研究の進捗状況および成果公開の有無 ③検討の進捗状況
		(1)10月、検証に共通調査データ利用が許可。 (2)11月にデータ提供、指標案を2種作成（A：因子分析、B：内容的妥当性）。 (3)24年4月理事会報告、6月総会報告を予定。 ※23年秋の本格実施は延期	(1)現データでのベンチマーク指標案の検証完了 (2)総会で新指標案を2種説明 A：因子分析、B：内容的妥当性 (3)25年1月に部会委員によるモニタ実施 ※24年再試行（第4回）の実施が決定	中計立案時に想定していたスケジュール通りに全国学生調査の実施が進捗しなかったため(23年度の本格実施延期、24年度第4回試行実施)、新調査票でのベンチマーク指標案の検証は実施できず、全国学生調査との統合が主な活動となった。
<u>データの相互比較方法の開発</u> データの大学間相互比較は本会の最大の利点の一つだが、現状の比較方法では基礎集計（各選択肢の回答割合）あるいは平均値の比較という簡単なものに留まる。そこで、より効果的な相互比較方法の開発を行う。	5	<u>相互比較方法の試案の開発</u> 過去データを用い、試案の検討・開発を行う。	<u>相互比較方法の試案の検証</u> 過去データを用い、開発された試案の妥当性および有効性を検証する。	<u>ベンチマーク指標の相互比較（計画4-②と同時に実施）</u> 計画4で作成のベンチマークに対し相互比較を行う。
		試案の有無	検証の完了	計画4-②に含まれる
		(1)計画番号4の(1)、(2)、(3)と同じ。 (2)ヒストグラムを用い大学間比較の試案を作成。	(1)現データでの検証完了 (2)総会でヒストグラムを用い大学間比較案を説明 (3)25年1月に部会委員によるモニタ実施	計画番号4と同様に、全国学生調査との統合が主な活動となった。
<u>大学クラスタリングの開発</u> より効果的な大学間相互比較を実現するため、データに基づくサブグループの開発を行う。	6	<u>クラスタリング基準案の作成</u> 過去データに基づき、各種特色に応じたクラスタリング手法の検討およびクラスタリング基準案の作成を行う	<u>クラスタリング基準案の検証</u> 作成されたクラスタリング基準案の妥当性および有効性を検証する。	<u>大学クラスタリングに基づく相互比較（計画4-②と同時に実施）</u> 計画4で作成されたベンチマークを用い、開発された大学クラスタリングに基づく相互比較を行う。
		クラスタリング基準案の有無（無しの場合は検討の進捗状況）	①クラスタリング基準案の検証完了	計画4-②に含まれる
		(1)計画番号4の(1)、(2)、(3)と同じ。 (2)19年度1年生調査を分析し、大学の反応傾向を可視化、分類基準案を作成。	(1)可視化、分類基準案の検証完了 (2)総会で大学クラスタリングの開発状況を説明 (3)試案の作成を継続	計画番号4と同様に、全国学生調査との統合が主な活動となった。

取り組みの概要	計画 番号	2023年度	2024年度	2025年度
現行IRiSの利用拡大 利用状況の低い現状を踏まえ、 現行システムでどんなことができるのかを積極 的に発信する。 また、 ・利用者により使ってもらえるシステム ・利用者が使えるシステム にするために、基本的な活用パターンを開発 する。（システム開発ではありません）	7	<u>IRiS利用効果の積極的発信（継続）</u> 本活動は22年度から推進。23年度以降も継続。	<u>IRiS利用効果の積極的発信（継続）</u>	<u>IRiS利用効果の積極的発信（継続）</u>
		次の内、2つ ・ IRiS活用講習会開催1回 ・ IRiS活用の動画コンテンツ作成（1つ） ・ 利用例集の作成（1利用例）	次の内、2つ ・ IRiS活用講習会開催1回 ・ IRiS活用の動画コンテンツ作成（1つ） ・ 利用例集の作成（2利用例）	次の内、2つ ・ IRiS活用講習会開催1回 ・ IRiS活用の動画コンテンツ作成（1つ） ・ 利用例集の作成（2利用例）
		・ IRiS活用講習会を4講演実施 ・ IRiS活用動画コンテンツ3つ作成（未公開）	・ 6本縦棒の動画コンテンツを作成し公開 ・ 国公立、私立、文、理、保健の基礎集計会員公開	・ CSグラフテンプレを作成し公開。 ・ 前項の講習会の他、IRiS活用講習会を2回開催。
	8	<u>基本的活用パターンの開発</u> パターン化された活用方法を開発し、簡単な操作 で結果が表示でき、印刷すれば報告資料に使える ようにする。	<u>基本的活用パターンの開発（継続）</u>	<u>基本的活用パターンの開発（継続）</u>
		・ 2パターンの開発	・ 2パターンの開発	・ 2パターンの開発
		6本縦棒グラフ比較テンプレートを作成	CS分析グラフテンプレートを作成し4/2に講習実施	CS分析グラフテンプレートを作成し4/2に講習実施
現行IRiSの機能追加、環境改善 全国学生調査への対応（含：設問削減）を除 く、通常のIRiSの機能追加や環境改善につい ての取り組み	9	<u>機能追加の検討</u> ・ 全国学生調査連携対応 ・ 他の取組から生じる機能ニーズの対応検討 （グラフ機能、ダッシュボードの追加等）	<u>機能追加の検討（継続）</u> ・ 全国学生調査連携対応 ・ 他の取組から生じる機能ニーズの対応検討	<u>機能追加の検討（継続）</u> 過去2年の取組内容の検証
		検討実施の有無、機能追加/改善の有無	検討実施の有無、機能追加/改善の有無	
		IRiS相互比較の折れ線のラベル表示および excelDLデータへの質問内容の追記を実施。	全国学生調査対応として設問数削減なども含めて推進 （詳細は総会議事報告2で説明）	全国学生調査の本格実施に伴い、設問統合、全体設問 数削減およびIRiS改修を実施することになった。
	10	<u>運用費用・保守費用削減を目指す</u> 運用環境の見直しなどを検討し、運用費用の削減 を目指す	<u>運用費用・保守費用削減を目指す（継続）</u>	
		2022年度比で5%の削減（約29万円）	2023年度比で5%の削減	Microsoftの大幅値上げで、9.7%のコスト増 予算に対しては3.3%削減。
		現状は削減ではなく保守内改修を要請中	Microsoftの大幅値上げで、2.6%のコスト増	
	11	<u>HPでの公開情報の充実（ex.tableau連携）</u> 見せ方、公開範囲、結果の動的表示など	<u>HPでの公開情報の充実（継続）</u> 見せ方、公開範囲、結果の動的表示など	<u>HPでの公開情報の充実（継続）</u> 見せ方、公開範囲、結果の動的表示など
		動的な集計結果の表示	公開範囲（公開情報）の追加	公開範囲（公開情報）の追加
		この計画番号については未着手である。	HPのコンテンツ変更・追加等を事務局で実施できる ようにWordpressで書換え開始。	HPのWordpressへの書換え終了。全国学生調査との設 問統一などのコンテンツを追加掲載。
IRiS利用状況のモニタリング （取組効果の指標として）	12	ログ分析	ログ分析	ログ分析
		ログイン数、利用グラフランキングなど	ログイン数、利用グラフランキングなど	ログイン数、利用グラフランキングなど
		1～6月、7～12月のログ採取。年度比較実施。	6月、11月、12月にログ採取。	5月、12月、1月にログ採取。

広報・WS部会（重点課題 4 現会員間の情報共有・意見交換の場の拡充）

取り組みの概要	計画 番号	2023年度	2024年度	2025年度
講演会／講習会の充実 （会員向け取組） 以前から実施しており、最近はZoom開催の手軽さもあって比較的活発化しているが、講師は会員に限定している。有償も許容した外部講師による有用・有益な講演/講習会を企画し開催する。従来企画も含めて、内容によっては「受講修了証」を発行する。 【本欄に不記載の内容】 ・従来企画の講演会/講習会 ・IRiS活用関係はシステム運用部に記載	13	外部講師による講演会の企画検討と試行開催	1年目の継続	2年目の継続
		試行開催1回	開催1回	開催1回
		・11/14、会員向け講演会で初めて外部講師（淑徳大学 荒木氏）を招き、会員との共催で実施。 ・今後は中期計画に基づき毎年度外部講師の講演を目指す、「外部講師」に拘らず、会員の関心を重視した内容に注力する。	・昨年度に示した「外部講師」に拘らず、内容重視の方針で実施 ・計8回の講演会/講習会を開催	・前年度と同様に「外部講師」に拘らず、内容重視の方針で実施 ・第29回から第36回まで計8回の講演会/講習会を開催
交流の場の充実 （会員向け取組） 講演テーマの希望上位に「他大学での事例」があるが、そのような機会が少ないことの証左である。今までもワークショップなどを開催し、課題や対策の共有に務めたが、更に発展充実させることとコロナによる社会変化にも適応した「交流の場」の開発などを進める。 ※：計画番号14の新WSについて コロナ前に実施していたWSを旧WSとし、リモートが定着しつつある状況を踏まえて新しく企画するWSのことを新WSとした。新WSは必ずしも＝ハイブリッドということではなく、Zoom開催でどれだけ旧WSに近いことができるかを企画開発したものを言う。	14	Zoomでの新WS※開催の試行 コロナでリモートでのイベント開催が定着している状況を踏まえ、Zoomでいかに「リアルWS」に近い開催ができるかを検討し試行する。（ハイブリッドも含め） 必要に応じて「受講修了証」を発行する。	新WSを通常開催	新WSを通常開催
		試行開催1回	通常開催1回	通常開催1回
		この計画番号については未着手である。	この計画番号については未着手である。	この計画番号については未着手である。
	15	コンソ内に「部活動」的な集まりを新規に開設する。 先ず、「部」単位（ex.規模、地域、専門分野、設置区分、課題、学内報告など）の検討を行い、モデル部を1～2開設し、運用方法などを検証する。	モデル部を検証改善し、部の増設を図る。	各部の自律的運用を図る。 各部の運営に事務局はもちろん協力するが、活動の内容については自律を図る。
		モデル部の新規開設1～2部	1～2部の増設（合計2～4部）	自律運営の部 1～2部
		・テーマとして①分析・報告書作成、②大学の類別(規模・地域等)、③IRやIT初心者向けを検討。 ・開催手段としてZoomやSlackの利用を想定。 ・但し、具体的なWG発足/開催は未実施。	この計画番号については未着手である。	この計画番号については未着手である。

広報・WS部会（重点課題5 新規会員獲得に向けた広報の拡充）

【報告2】中期計画の報告案

取り組みの概要	計画 番号	2023年度	2024年度	2025年度
広報の充実 （主に外部向け） 外部を意識した広報活動の充実を図る。 新規会員獲得については別枠で取組む。	16	HP内容の改善と充実 2020年9月の新HP公開以降はイベント追記程度の更新であったが、掲載内容の改善（ex.公開基礎集計の見直し→内容、動的見せ方等）やFAQの充実、動画コンテンツ、訪問者別(会員/非会員、加入検討者)コンテンツの企画検討を行う。	1年目の検証結果に基づく改善の実施	2年目の検証結果に基づく改善の実施
		上述した具体策の内、2点を実施 HPのアクセスログ（数値は未定）	具体策の内、2点を実施 HPのアクセスログ（数値は未定）	具体策の内、1点を実施 HPのアクセスログ（数値は未定）
		計画番号11と類似内容。未着手である。	HPのコンテンツ変更・追加等を事務局で実施できるようにWordpressで書換え開始。	HPのコンテンツ変更・追加等を事務局で実施した。
	17	HP以外の広報ツールの改善と充実 パンフ、リーフ、イベントへの広告、年次報告書、Wikipediaなどを検討し充実を図る。	HP以外の広報ツールの改善と充実（継続）	HP以外の広報ツールの改善と充実（継続）
		検討した具体策の実施率（個数の）：6割	1年目に検討した具体策の実施率（個数の）：完了	2年目に検討した具体策の実施率（個数の）：完了
		・年次報告書を作成しHPへ掲載した。 ・①大学教育学会広告、②MJIR出店及び広告	・年次報告書を作成しHPへ掲載した。 ・MJIR出展及び広告	・年次報告書を作成しHPへ掲載した。 ・MJIR出展及び広告
	18	活動内容の広報 従来実施していなかった当会活動に関する広報に取組む。まずは、プレスリリースの活用や全国学生調査との連携に関する広報などに取り組む。	活動内容の広報（継続）	活動内容の広報（継続）
		新規広報1件	新規広報1件	新規広報1件
		この計画番号については未着手である。	この計画番号については未着手である。	この計画番号については未着手である。
	新規会員の獲得	19	対象へのアプローチの強化 ・非会員への情報発信の強化 HPに会員の声を掲載「入ってよかった」等 非会員向けイベント企画 ・入会検討者への情報強化 専用広報ツール作成、HPに専用コーナ	1年目の結果検証、施策検討と実施
シェア率：「クープマンの目標値」の市場認知シェアである10.9%(85校)を3年間で達成することを目指し、毎年7校増（±で）を目標とする。 施策実施状況：上記の内、1～2個実施			会員数：毎年7校増（±で）	会員数：毎年7校増（±で） ※3年目終了時に会員数85校
・新規会員向けイベントは未実施。 ・入会検討用IRIS紹介動画1つ作成（未公開）。 ・Zoom説明会を5大学に実施。内2大学入会。 ・入退会校共に2校で増減は±0。			・新規勧誘チームを会長直下に設置することを決定（設置は来年度） ・お試し体験の仕組みを検討 ・Zoom説明会を7大学に8回実施。内2大学入会。 ・入会2校、退会4校でマイナス2校、計64会員	・新規勧誘チーム募集及び設置（広報・WS部会内） ・お試し体験の仕組みを創設し実施 応募：15校、実施：8校、入会：3校 ・お試し体験校以外のZoom説明会を3校に実施

6. 情報公開

- (1) 「学生調査 2024 年度」基礎集計結果の報告資料を一般公開（2025 年 8 月 25 日）
大学 IR コンソーシアムが企画し、大学 IR コンソーシアム会員校である各大学が
2024 年度の後期（秋学期）期間中に実施した学生調査です。
(1 年生 29,647 件、上級生 40,359 件)
- (2) 「卒業生調査 2023 年度」基礎集計結果の報告資料を一般公開（2025 年 8 月 25 日）
大学 IR コンソーシアムが企画し、大学 IR コンソーシアム会員校である各大学が
2024 年度中に実施した卒業生調査です。
(4,086 件)
- (3) 「学生調査 2025 年度」基礎集計結果（中間報告）の報告資料を一般公開（2026 年 3 月 31 日）
2025 年度の後期（秋学期）期間中に実施した学生調査の中間報告です。
(43 大学 65,265 件)

7. 会員一覧 (<https://irnw.jp/about-us#cont06>)

大学 IR コンソーシアムには、全国の国公私立 63 大学が加盟しています（国立 7 大学、
公立 10 大学、私立 46 大学）。 2025（令和 7）年 12 月 31 日現在

正会員

あ行

愛知工業大学 大阪工業大学 会津大学 大阪公立大学 秋田県立大学
大阪国際大学 麻布大学 大阪産業大学 大分大学

か行

関西国際大学 久留米工業大学 神田外語大学 皇學館大学 岐阜医療科学大学
甲南大学 京都ノートルダム女子大学 甲南女子大学 杏林大学 神戸親和大学

さ行

作新学院大学 下関市立大学 四国大学 上智大学 静岡大学
情報経営イノベーション専門職大学 芝浦工業大学 成蹊大学 島根県立大学
成城大学

た行

大正大学 東京家政大学 高松大学 東京電機大学 玉川大学
東京薬科大学 千葉県立保健医療大学 東北工業大学 帝塚山学院大学
東洋学園大学

な行

長崎国際大学 新見公立大学 長野県立大学 西九州大学 長野大学
日本獣医生命科学大学 長浜バイオ大学 名寄市立大学

は行

広島工業大学 北海道科学大学 福井大学 福岡工業大学 藤女子大学
北海道大学 星薬科大学

ま行

室蘭工業大学 目白大学 森ノ宮医療大学

や行

ら行

琉球大学 龍谷大学 流通経済大学

わ行

和歌山大学 和光大学 和洋女子大学

賛助会員（入会順）

富士通 Japan 株式会社 スキャネット株式会社 株式会社ベネッセ i キャリア
日鉄ソリューションズ九州株式会社 ウイングアーク 1st 株式会社
株式会社タイムインターメディア

特別会員（入会順、敬称略）

浅賀 圭祐（岩手大学） 江端弘樹（周南公立大学）

令和7年度（2025年度）大学IRコンソーシアム 年次報告書

2026年9月24日発行

【発行】 一般社団法人 大学IRコンソーシアム

【編集】 広報ワークショップ部会

〒534-0024

大阪市都島区東野田町5丁目2番23号

京橋セントラルビル

TEL 06-4397-4188

URL <https://irnw.jp/>